



愛称は「ちがさき丸ごと博物館」



丸博百景 No.2 小出川より春の富士山を味わう

※丸博百景では誰でも自由に入れる景勝地を紹介します。

春のおススメ！「都市資源巡り」

～色づく季節に負けない、生活の彩りを～

海辺～街～里山がコンパクトにまとまっている茅ヶ崎は、歴史・考古・民俗・自然等にまつわる有形・無形の都市資源＝「まちの宝物」であふれかえています。

皆さん、どこことなく気分が軽やかになる春の息吹に誘われて、気軽でお散歩感覚な「都市資源巡り」に出掛けてみませんか？

今回の季刊誌では、この季節にぜひとも訪れたい都市資源をご紹介します。先々での楽しみ方は、「ゆかりの出来事に想いをはせてみる」、「創造力を広げ自身の物語を紡いでみる」、「何も考えずにただその場を感じてみる」等々…十人十色が丸博流。

さあ！ 皆さん、好奇心を羅針盤に日常の中の非日常を発見し、色づく春に負けない、それぞれの生活の彩りを深めていきましょう！

おススメ都市資源① ～エリア「春の海辺」の散策コース

茅ヶ崎の美しい海岸沿いを散策しながら、地元の歴史や文化、花や公園を訪ねてみませんか。

茅ヶ崎の海岸沿いには西部（相模川左岸）から東部（汐見台）まで多くの文化人ゆかりの地や公園などがあり、いずれも大切な都市資源です。

また、茅ヶ崎駅南口のすぐ近く、図書館の隣にある高砂緑地は茅ヶ崎で公開されている唯一の別荘跡です。この「高砂緑地」は川上音二郎と貞奴の旧宅で、その後、原安三郎の別荘となります。今でも、原別荘当時の日本庭園がそのまま残り、その後、新たに建築された茶室や書院、文化人達の記念碑があります。



一方、西部の相模川近くには新設された「柳島スポーツ公園」。その東側は明治の中頃から茅ヶ崎の近代化の一翼を担い国木田独歩などを始めとして多くの文化人が関わった、東洋一のサナトリウムとも言われた「旧南湖院第一病舎」。巨匠小津安二郎監督の定宿で明治32年に開館した歴史ある「茅ヶ崎館」もすぐ近く、その隣には昨年サザンオールスターズのライブ会場となった「茅ヶ崎公園野球場」。

そこから海に向かえば茅ヶ崎のシンボルえぼし岩がそびえ、房総半島、伊豆大島、伊豆半島、富士箱根連山を一望できる「ヘッドランド」。その近くにある椿の名所「氷室椿庭園」、少し東に行くと芥川賞作家開高健の住まいだった「開高健記念館」とお隣の「茅ヶ崎ゆかりの人物館」。また少し北東寄りの「九代目市川團十郎別荘跡」など、本当にたくさんのお見所（都市資源）があります。



なかでもお勧めしたいコースは、茅ヶ崎駅南口～高砂緑地～茅ヶ崎公園野球場と国木田独歩の追憶碑～ヘッドランド～氷室椿庭園～開高健記念館と茅ヶ崎ゆかりの人物館。帰りはラチエン通り、鉄砲道経由で歩きかバス利用にて茅ヶ崎駅へ。

旧別荘地の風情を感じながら、茅ヶ崎を新たな視点から楽しめる散策になることでしょう。

おススメ都市資源② ～エリア「春の里山」の散策コース～

市役所の向かいの市民文化会館や総合体育館と大型商業施設の間にある道は、「鎌倉古道」と言われています。その道を西へ少し行くと小高い丘があります。春は桜が満開です。「本사가丘」といいます。

その昔、源頼朝の御先祖の源頼義が朝廷に命じられて東北征伐へ行く際、この地で戦勝を祈願して石清水八幡宮を勧請（かんじょう）しました。後にこの八幡宮を「鶴嶺八幡宮」へお移ししたとのこと。

なお、「旧相模川橋脚」は、源頼朝の重臣の稲毛重成が亡妻（北条政子の妹）供養のため相模川に架けた橋の橋脚と推察されています。この橋の渡り初めの際に、頼朝は義経の亡霊に驚いて落馬し、それが原因で亡くなったとの伝承に関連して、義経の霊も合祀されている「御霊神社」や「弁慶塚」、すぐそばの左富士の眺めも素晴らしいです。



また、鶴嶺八幡宮から北東方面の円蔵の「神明大神宮」は源頼朝の御所造営奉行でもあった懐島景義の館の敷地内にあったようです。すぐ近くの「輪光寺」は河童徳利で有名な河童の像があり、また、茅ヶ崎で最古の「三猿の庚申塔（さんえんのこうしんとう）」もあります。

市役所から春の花見と歴史散策はいかがですか。

都市資源の紹介～今に残る湯屋の石碑 あたみかわらゆ 湯治所山口屋～

浜見平団地のバスターミナルのある浜見平南口の信号を右折して、すぐにバス通りと左に行く二股に道は分かれます。その左側を進むと白いオシャレな建物、フレンチレストランのル・ニコ・ア・オーミナミが目に入ります。

入り口の左にお稲荷さんがまつてあり、その前に石碑が立っています。石碑には「あたみかわらゆ 湯治所山口屋 ゆがわらほか」と書かれており、よく見ると揮毫（きごう）したのは藤間柳庵（とうまりゅうあん）とあります。

明治の頃、ここに湯屋があったこと、その湯は熱海などから運ばれていたことを物語っています。

ちなみに熱海市には「河原湯」という温泉がありました。当時の姿をほうふつさせるように熱海七湯、河原湯の四阿（あずまや）が235号線の東海岸町の信号と次の信号の中間にあります。明治時代に藤間家の400石船で運ばれてきたことを思い浮かべて欲しい温泉宅配便です。

【注】お店の敷地内なので、営業時間内の観覧は避けてください。



「丸博講座（基礎編）第15期」実施レポート～初のハイブリッド形式～



▲基礎講座初！発掘現場見学

住まうまち・茅ヶ崎を一から知ることができる人気講座「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座（基礎編）」、今年度も開催することができました。募集早々定員に達しましたこと、御礼申し上げます。ありがとうございました。

今年の講座（基礎編）は、初の試みとして今までの座学（考古学・自然史・文献史学・民俗学）を中心とした講座形式から、まち歩き的时间を増やした「講座+まち歩き」のハイブリッド形式となりました。

受講者の皆様にとって、講座で学んだ知識を携えて、まち歩きで学んだことを再認識し、また、新たな発見・気づきがあることを願って止みません。

ハイブリッドを「異なるもの同士が組み合わせさせて、新しいものができること」とするなら、今回の講座（基礎編）は、丸博の縁のある市民団体「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会」と、市との協働の成果ということができると思います。

3月15日、丸博館長（社会教育課長）から、19人の第15期受講生の皆様に卒業書が授与されました。

第15期受講生の皆様、ご卒業おめでとうございます！約2か月の連続講座はいかがでしたか？

知って、巡って、気づいて、交流する、皆様の「日常の旅」が、これからも続きますように！



トピックス

砂まみれの茅ヶ崎

♪砂ま〜じ〜り〜の茅ヶ崎♪は、市民ならずとも知っているフレーズですが、その元は海岸砂丘の砂です。工事でもない限り砂地は見えないので、普段はあまり意識しませんが藤沢から平塚にかけての平たん部分は数列の砂丘からなっています。

しかし今年の正月には押し寄せる砂を実感させる出来事を目撃しました。サイクリングロードの上に高さが1.5〜2mはあろうかという砂の峰が出現し、通行不能になっていました。



トピックス

加山雄三氏銅像建立

令和5年4月29日から10月9日まで、ゆかりの人物館で「加山雄三展 湘南・茅ヶ崎と若大将」が開催されました。9月1日には茅ヶ崎市名誉市民に決定され、会期中延べ4,400人以上の来館者で賑わいました。

令和6年4月11日には市役所前広場に加山さんの銅像が建立されることになりました。当日は87回目の誕生日でもあり、加山さん御本人もお見えになる予定です。



除幕式とともに、加山さんの御健康と今後の御活躍をお祈りします。

今月の人!

丸博ゆかりの人物紹介「丸博活動の精神的支柱」

大原一興さん (横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授)

丸博活動の基本理念である「エコミュージアム」は、横浜国立大学の大原一興先生にご解説いただき導入されています。また、今までの事業展開においても、数々のご講演をいただく等、言わば丸博活動の「精神的支柱」ともいえる方です。

先生がこの度、横浜国大教授を定年退職される事となり、先生所縁の幅広い世代の方々がかめかけた最終講義が2月16日に開催されました。先生、本当にお疲れ様でした。ただ、丸博活動には「定年」はありませんので、これからも末永く「丸博」をよろしくお願い申し上げます!



ちがさき丸ごとふるさと発見博物館ってなに?



2003年よりエコミュージアム(※)という理念のもと、茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材(もちろんあなたも)などの「このまちらしさ」をもつ、いろいろな事柄を幅広く選び出し、これらの都市資源を調査・研究し、それぞれを関連付けて活用を図るのが、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」です。この活動を通じて茅ヶ崎を知り、茅ヶ崎を好きになり、茅ヶ崎を誇りに思う人を増やし、まちの活性化につなげていきます。ぜひ皆さんも私たちと一緒に丸博に参加しませんか。

※エコミュージアムとは、地域環境そのものが博物館であるという考え方で、運営する者も利用する者も、地域住民であることが大きな特徴です。

編集後記

春をテーマとした記事を中心にお届けしました第38号はいかがでしたか? 「春の海辺」「春の里山」、記事を読むと、改めて茅ヶ崎市の都市資源の豊かさに気づかされます。ところで、私は第一面に掲載した丸博百景を見る度に旅情を感じて外に出掛けたくくなります。青空に冠雪残る白富士、緑の土手に映える桜並木、見ているだけでウキウキしませんか? 春はすぐそこまで来ています。さあ、出掛けましょう! (編集スタッフ一同)

